

10号に引き続き、みなさんの作文を紹介します。

同じ時間に、同じ内容を、しかも木村敬一さん本人から、みなさんが聴いた話ですがそれぞれの人が、「木村敬一さんはすごい人だ」だけでなく、自分自身のこれまでの経験や今の自分、そして未来の自分と重ねながら聴いていることに感心します。

「夢をつくる」

2年生

私は夢を小さな頃から迷い、変え続けています。今はスポーツや職業的な夢は無く、自立を目指したいなどといった夢しか持っていません。最初の頃は医者になりたくて沢山勉強をしてきましたが、心がおれて別の夢を探したりしていました。なので、今日、木村選手のお話を聞いて、小さい頃から水泳をして、中学3年生でもっと速くなりたいという想いが生まれた、という事が私にとっては本当に素敵だなと思うのと、うらやましいという感情になりました。迷い続けている自分ですが、今からでもおそくないのでしょうか。そんな事も今日のお話を聞いて思えました。もう少し夢は迷いそうですが、一度自分を見直してみて、自分になんて絶対にできないのではなく、努力や想いは必ず行動と比例して報われると信じて挑戦してみるのも悪くないかなと思いました。沢山の努力を積み重ねている木村選手は、すごく輝いて見えて素敵でした。

「ハートのバリアフリーをやるだけで」

1年生

「ハートのバリアフリー」。木村敬一さんのお話を聞いて一番印象に残った言葉です。正直、「みんなの気づかいは増えれば、もっと暮らしやすくなる」と聞いたときは、びっくりしました。なぜなら、私は障害のある人たちがもっと暮らしやすくなるような物が開発されれば、それが一番だと思っていたからです。しかし、木村敬一さんは、ハートのバリアフリーを大事にしていました。なので、今回の人権講話を聞き終わった後に考えてみました。すると、支え合って生きていく事が、ハートのバリアフリーにつながっているのではないかと思いました。工夫されている物が開発されるより、私たちのささいな一つの思いやりの行動が支え合いになって結果的にハートのバリアフリーになると思ったからです。なので、私は、ささいな一つ一つの事だとしても気づかえるように生活していきたいです。

「小さな夢から大きな夢へ ～チャレンジを続けるために～」 2年生

「パラリンピックで金メダルを獲得する」私は、講演を聞いて、この“大きな夢”を実現できたことが本当にすごい事なんだなと思いました。普段私たちがテレビで見るパラリンピックでは、様々な選手たちが一生懸命動いている姿しか見ることは無いけれど、実際、誰も想像できないほどの練習があると知ると、とても感動しました。また、「目が見えないからできない」のではなく、「目は見えない。だからこそ、人一倍頑張る」という木村さんの強い気持ちが、今回の講演を通して感じることができました。大きな夢にチャレンジしようとする姿と達成するための過程、そして、お互いにはげまし合える仲間が、今回の水泳に限らず、他のスポーツや日常生活でも大切なんだなと思います。私は、実際にバドミントンを部活動で行っています。水泳と同じ個人戦。だからといって、1人で成長して勝てる競技ではない。そう思っています。きついトレーニングでも、走るメニューでも、ずっと頑張っているのは、“仲間”という大切な存在がいるからだと思えました。私は、自分の目標、夢に向かって、くじけそうになった時でも立ち上げられる“強い気持ち”と、仲間を大切にする“思いやりの気持ち”を忘れずに、色々なことにチャレンジしていきたいです。チャレンジすることで見えてくる、新しい自分、新しい仲間に出会えることを信じて。

全校生徒が書いた一人ひとりの想いは、素晴らしい内容で多くを紹介したいところですが、他の作品については学年だより等を通してお伝えします。なお、10作品を県教育委員会が募集している「いのちの授業大賞 2022 作文」に応募します。

木村敬一さんが来校した際、校長先生は人生で初めて点字で手紙を書きました。点を打ち間違えてはやり直しの連続。出来上がった手紙を読んでもらうと、～は、の「は」は「わ」、がっこうなど「う」は「一」などと教えてもらいました。勉強不足、配慮不足で、申し訳ない気持ちでしたが、機会があれば再度挑戦します。

講演当日には、大和市障害福祉課の方が8名も来校し、木村さんの話を聞けたことや会えたことに感動していました。障害福祉課では、手話通訳を広めたいと、指導者を派遣しているそうです。興味がある人、手話を習いたい人は、担任の先生に声をかけてください。

今回の内容とは異なりますが、本校生徒の活動の様子が神奈川県教育委員会 HP “はにい”「いのちを大切にする心を育む」や 神奈川新聞「教室に行こう」などに順次紹介されます。